

---

## 沖縄の歴史情報研究に参加して

金城 善：糸満市役所総務部

---

平成6年1月23日に沖縄国際大学で開催されたプレ・シンポジウム「『沖縄の歴史情報研究』はいかにあるべきか」に参加したのがつい昨日のように思い出される。勝村哲也先生が「コンピュータは悪魔である」と述べておられたのが印象的であった。また、岩崎宏之先生が一生懸命に関係者に理解と協力を呼びかけておられたことも記憶に新しい。

最初は、沖縄国際大学の仲地哲夫先生の「沖縄の社会に関する研究」の研究協力者として参加するようにとのことであったが、途中からは琉球大学の豊見山利行先生の「琉球王国の構造に関する研究」で「家譜」のデータベース化の方法に協力することになった。それから、「沖縄の社会に関する研究」のグループから新規に公募研究として分派した名城敏男先生や中村誠司先生の「沖縄における地方（じかた）史料の情報化」の方でもデータベース化の方法について、いっしょになって考えた。しかし、最終的には沖縄県地域史協議会（「沖地協」と略す）の代表をしていたときから抱えている「官報掲載沖縄県関係資料」の記事目録のデータベース化に集中することになった。

コンピュータを用いて歴史を研究するということは、私にとっては沖地協の仲間と協同・共有の事業として収集した約10万枚のコピーを「官報掲載沖縄県関係資料目録データベース」として、皆に提供することであった。機種異なるワープロ専用機やパソコンで、日付とページと記事を適当（各市町村史の編集者であるので、基本的なことは理解しているものとの認識で）に入力してくれるようにと糸満市教育委員会文化課で製本したものを配布したが、入力要領を作成しないで依頼したため私の手元に届けられたフロッピーに入れられたデータは様々なものであった。その責をとって、これまでこつこつと自分一人で校正と修正を行ってきたが、仲間でもある沖縄大学の田里修先生が公募研究で参加することができ、やっと沖地協の仲間が利用できる状況になった。「官報掲載沖縄県関係資料目録データベース」は、今後沖地協の多くの仲間に利用される中で、利用しやすいように修正されていくこととも思う。

総括班研究会に参加するために、東京や京都、大阪、鹿児島、奄美大島へ出かけ、多くの方々と会うことができた。中でも、東京大学史料編纂所へは、かつて「沖縄文献委員会」の会員として「島津家文書」を閲覧に訪れたこともあって、恐れ多いところというイメージがあったが、石上先生をはじめ多くの先生方が琉球・沖縄に関して研究されていることもあり、今では気軽に訪ねることができるような気がしている。

この近世期を中心とした「沖縄の歴史情報研究」は、4年の研究期間を終えて多くの情報を関係者に提供することができたと思うが、やり残したことも多々あるのではないか。沖縄県の令達関係をはじめとして多くの近代資料が、データベース化されていない。今後は、やり残した近世資料の収集にも努めながら、近代資料のデータベース化を推進していかなければならないものだと考える。大学の研究室レベルだけではなく、市町村史編集室のメンバーを主軸とする地域史の問題として、取り組むべきだと思う。今後とも多くの先生方のご指導とご協力をお願い申し上げ、「沖縄の歴史情報研究に参加して」の感想としたい。ありがとうございました。